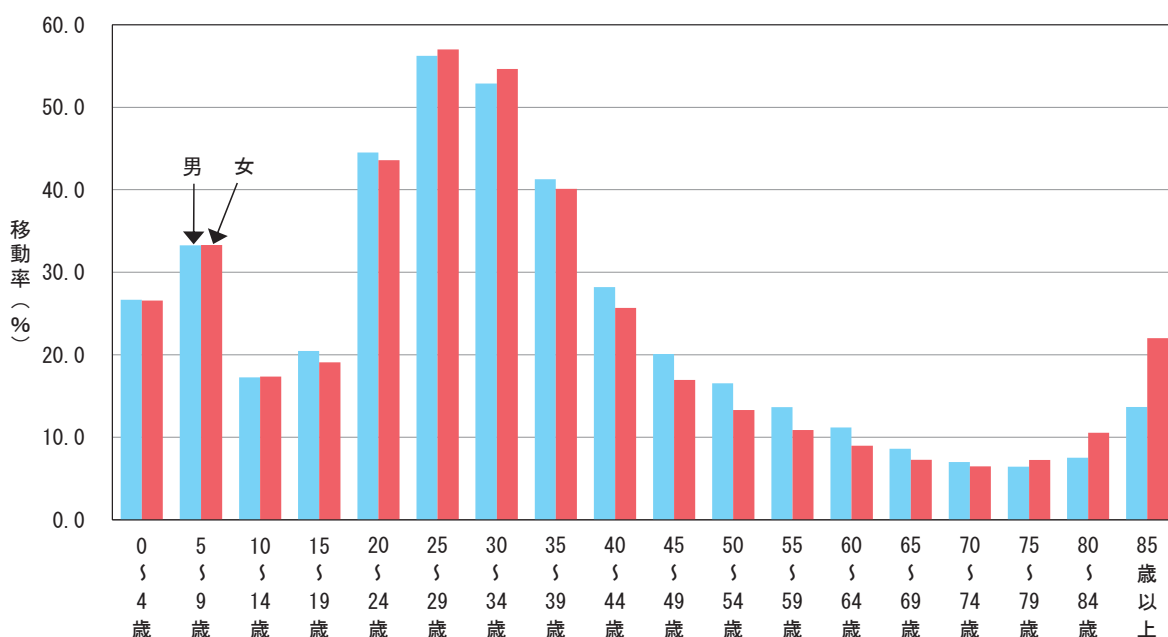


## 2-3 転出・転入 —自己実現の「場」は？—

引っ越しを経験したことがありますか？ 国勢調査では、どれだけの人が、どこへ移動したのかを調べています。特に移動が多いのは20～30歳代の若者たち。進学、就職、転勤、結婚、出産などライフステージの変化に合わせて、住む場所を変える人が多いからでしょうか？ また、どの都道府県に移動したかについてみると、国内での人の動きもみえてきます。

### Q1 引っ越しをする人が多いのは何歳くらいの人？

男女、年齢（5歳階級）別移動率—全国（2020年）



注) 不詳補完値による。

#### A 引っ越しは20～30歳代が多い

- ◆ 5～9歳で住居を移している人は3割を超える
- ◆ 70歳以上では、年齢階級が高くなるにつれて住居を移す割合が高くなる傾向

※ 移動率とは、調査時現在の常住地が5年前の常住地と異なる人の割合をいいます。

注意点⑤ P. 39



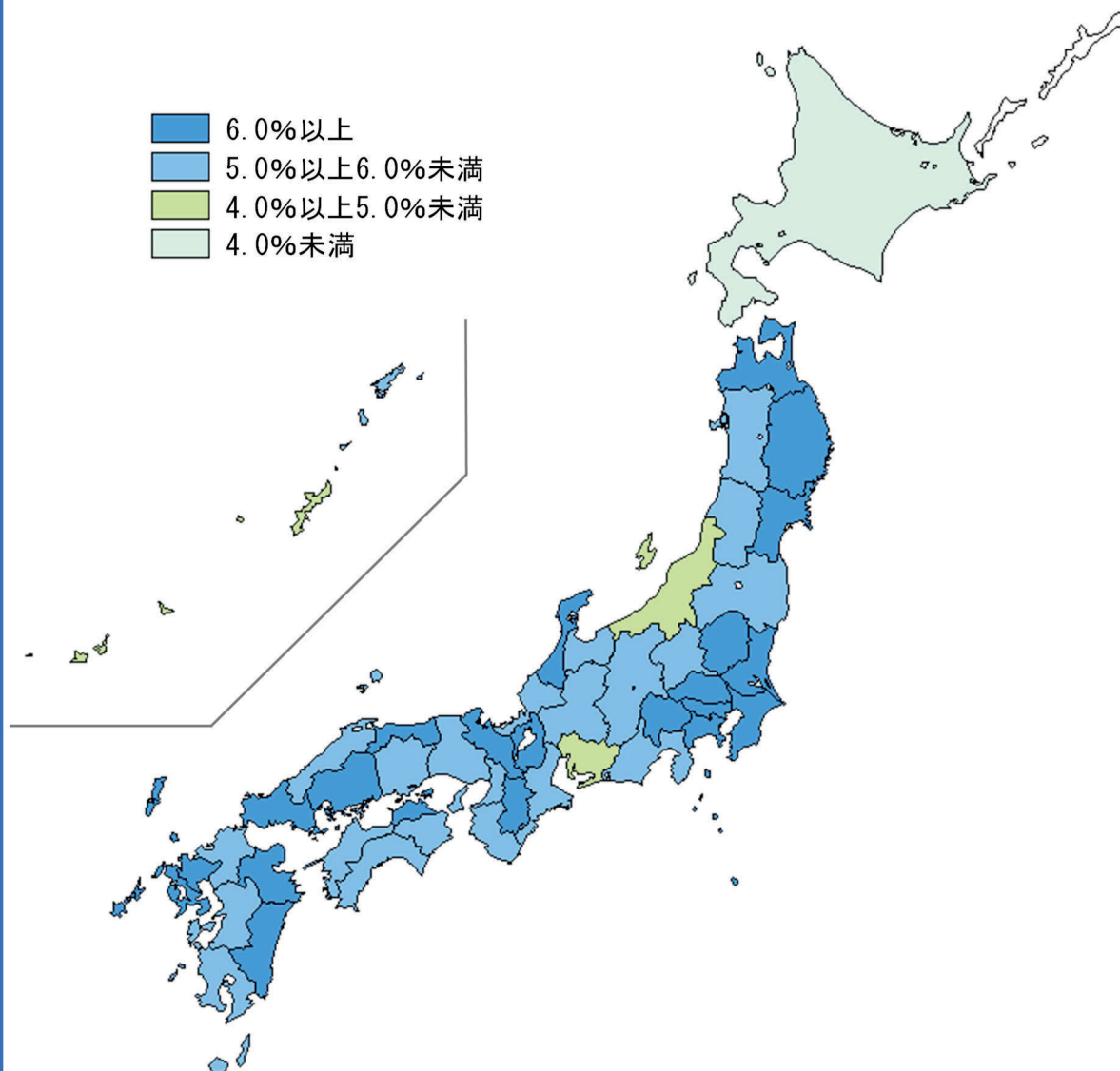
#### 《ポイント》

10歳未満の子供は、親と一緒に引っ越しをしていることが考えられます。

20～30歳代の若者は進学や就職、転勤、結婚などのため、85歳以上の高齢者は老人ホームなどの施設に入所するため引っ越しをしていることが考えられます。

## Q2 県外へ引っ越した人（転出者）の割合が最も高い都道府県はどこ？

転出者の割合—都道府県（2020年）



注) 不詳補完値による。

### A 転出者の割合が最も高いのは東京都で8.2%

◆ 2位 京都府（8.0%） 3位 宮城県（7.5%）

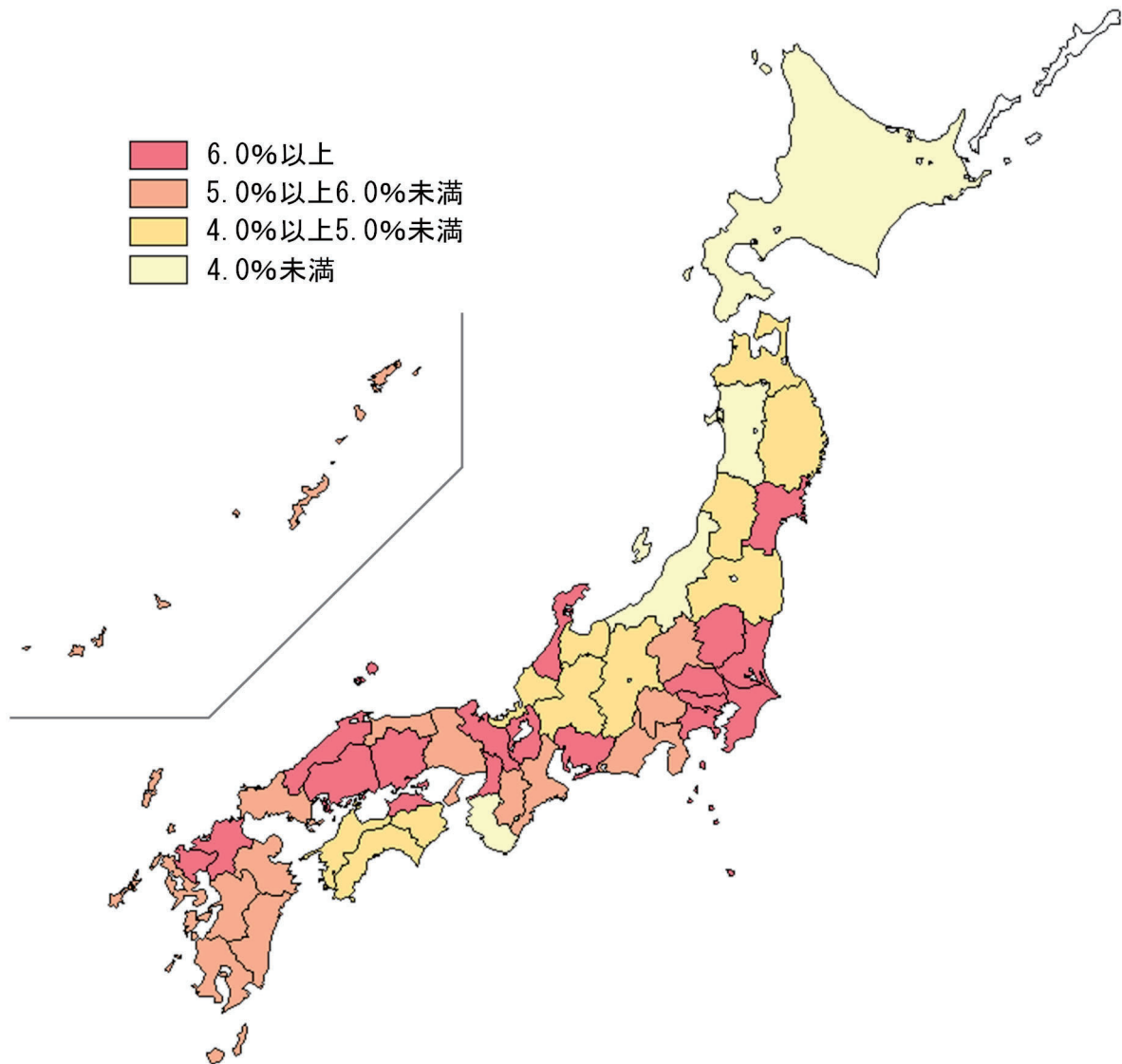
◆ 転出者の割合が低い都道府県は

1位 北海道（3.7%） 2位 沖縄県（4.5%） 3位 新潟県（4.7%）

※ 転出者の割合は、5年前の常住地が県外の者を5年前の常住地別に集計し、5年前の常住人口で割って算出しています。

### Q3 県外から引っ越してきた人（転入者）の割合が最も高い都道府県はどこ？

転入者の割合—都道府県（2020年）



注) 不詳補完値による。

#### A 転入者の割合が最も高いのは東京都で 12.4%

◆ 2位 神奈川県 (8.6%) 3位 千葉県 (8.6%)

◆ 転入者の割合が低い都道府県は

1位 北海道 (3.4%) 2位 新潟県 (3.5%) 3位 秋田県 (3.7%)

※ 順位は小数第二位以下の数値によります。

※ 転入者の割合は、5年前の常住地が県外及び国外の者を常住人口で割って算出しています。



## 都道府県別転入・転出超過数

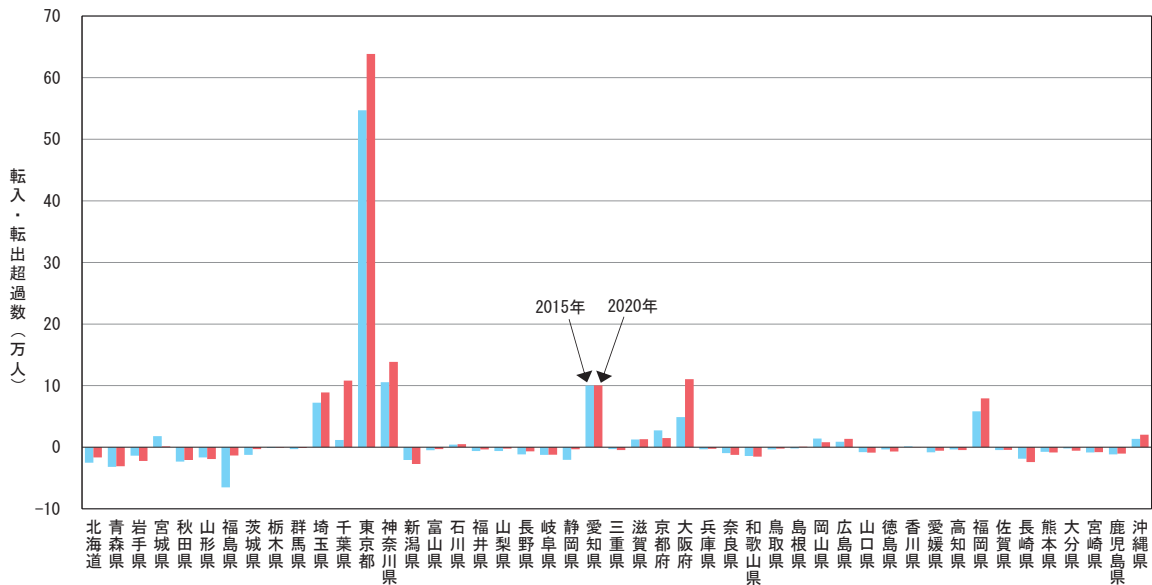


転入者数から転出者数を差し引いた数を転入・転出超過数といい、これを見ることにより地域間の移動に伴う正味の人口増減がわかります。また、転入・転出超過数が正になる場合を転入超過数といい、負になる場合を転出超過数といいます。2015年と2020年の都道府県の転入・転出超過数を以下グラフに表します。

2020年の転入超過数は、東京都が63万8千人と最も多く、次いで神奈川県（13万9千人）、大阪府（11万1千人）などとなっています。2015年も東京都の転入超過数が54万7千人と最も多く、東京都へ人口が集中している傾向にあることがわかります。

2020年の転出超過数は、青森県が3万1千人と最も多く、次いで新潟県（2万7千人）、長崎県（2万4千人）などとなっています。2015年は福島県が6万5千人と最も多く、これは2011年に発生した東日本大震災の影響を受けたものと考えられます。

転入・転出超過数—都道府県（2015年、2020年）



注) 不詳補完値による。